

選考試験 専門記述式問題（学芸員（近現代美術）／近現代美術）

問1 次の（１）～（８）の語句のうちから5つ選び、それぞれ解説しなさい。

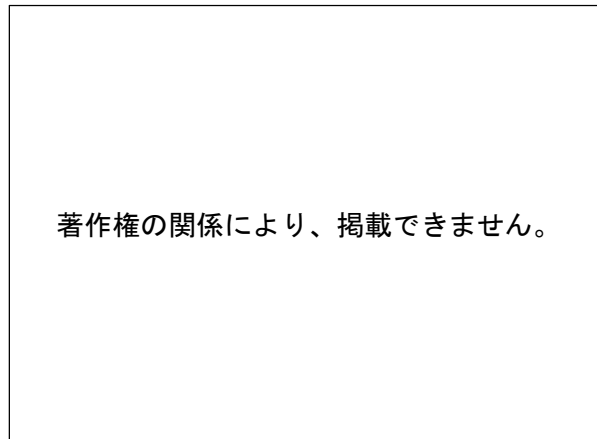
※答案用紙には、選んだ語句の番号を明記すること。

- （１）洋画と日本画
- （２）緑色の太陽
- （３）香川漆芸の三技法
- （４）日本画滅亡論
- （５）メタボリズム
- （６）ピクトグラム
- （７）トリエンナーレ
- （８）漫画

問2 次の（１）～（８）の作品のうちから5つ選び、展覧会で掲出するキャプション用の説明文を作成しなさい。なお、それぞれの作品の時代背景や美術的観点を交え、作成すること。

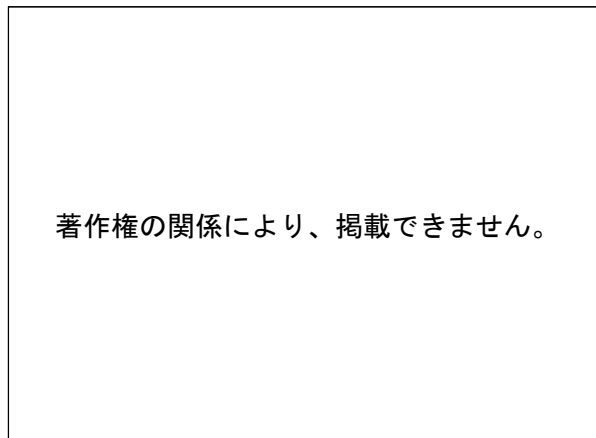
※答案用紙には、選んだ作品の番号を明記すること。

（１）



高橋由一（1828～1894）「豆腐」（1877年 油彩、カンヴァス）

（２）



黒田清輝（1866～1924）「湖畔」（1897年 油彩、カンヴァス）

(3)

著作権の関係により、掲載できません。

藤川勇造 (1883~1935) 「兎 (うさぎ)」 (1911年 ブロンズ (原型は乾漆))

(4)

著作権の関係により、掲載できません。

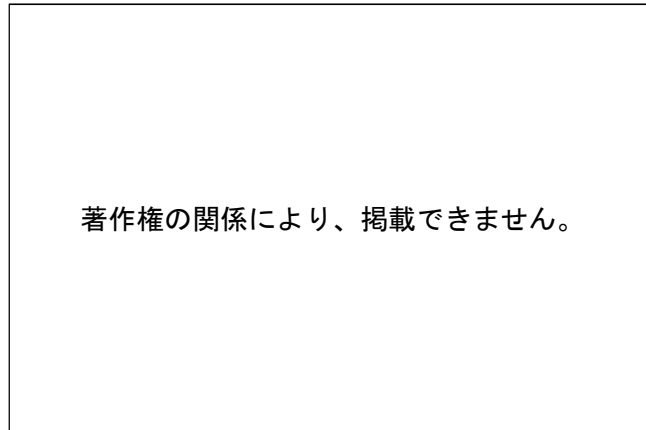
猪熊弦一郎 (1902~1993) 「自由」 (JR 上野駅中央口大壁画下図) (1951年 水彩、紙)

(5)

著作権の関係により、掲載できません。

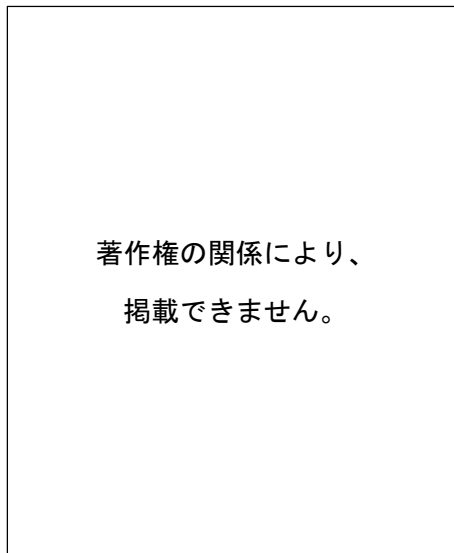
東山魁夷 (1908~1999) 「月光」 (1998年 岩絵具、麻布)

(6)



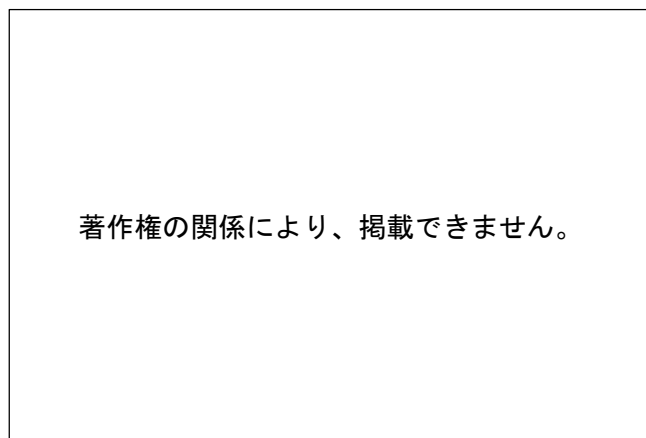
丹下健三 (1913~2005) 「香川県庁舎旧本館及び東館」 (1958 年竣工)

(7)



白髪一雄 (1924~2008) 「甘露軍荼利」 (1973 年 油彩、カンヴァス)

(8)



草間彌生 (1929~) 「南瓜」 (1994 年 / 2022 年復元)

問3 イサム・ノグチ（1904～1988）は世界的に活躍し、1969年以降、香川県にアトリエを構えて制作活動を行った芸術家である。その活躍と創造における意義について、述べなさい。

問4 香川県立ミュージアムは、歴史、美術及び民俗に関する資料（作品）を取り扱い、歴史博物館と美術館の機能を併せ持つ、総合的なミュージアムである。展示・普及・調査研究などの諸活動を通じ、香川の文化拠点として幅広い活動を行っている。あなたが同館の学芸員であるとしたとき、次の（1）～（3）のそれぞれの観点から、美術作品及び資料の在り方を踏まえ、今後の課題や展望を述べなさい。

- （1）収集と保存
- （2）地域との連携
- （3）観光と美術館・博物館

問5 あなたは香川県立ミュージアムの学芸員として、ひとつのコーナーの展示を行うことになった。同館の特性や同館が立地する場所の地理的、歴史的環境などを踏まえ、あなたの得意分野を生かした展示プランを述べなさい。